

# 吉川育英会だより

～友の会（OB会）会員と現役奨学生からの近況報告～

## Vol.4

### 私と伝統打楽器チャング



ベ エイデン  
裴 永珍（韓国）  
九州大学大学院

吉川育英会様のご支援により、無事に一年間充実した研究を続けることができました。この場をお借りして、心から感謝とお礼を申し上げます。

大学での研究と演奏活動が続ける中ではアルバイトも困難で、経済的に厳しい時期でしたのでご支援は大変ありがたいものでした。

さて、私はチャングという韓国の代表的な伝統打楽器の素晴らしさを日本の皆様にも知っていただくために活動し、交流を深めてゆきたいと思っています。チャングという楽器は古い時代に遡っていくと日本と韓国を結びつけている楽器のひとつで、日本の鼓（つづみ）に形状が似ており、そのことから関連性の深さが窺えます。朝鮮から日本に伝わり、変化して出来たものが高麗楽（こまがく）と呼ばれており、この音楽に使われている三ノ鼓（さんのつづみ）と言われる打楽器が、韓国のチャングと深い関係があり、繋がっていたわけです。チャングと日本のつづみと形は似ていますが、大きさや音は大きく違っており演奏方法も違ってきます。伝統的打楽器の中でチャングは唯一、左右の叩き方が違う打楽器です。



▲韓国の代表的な伝統打楽器「チャング」

つまり、片手は上下の動き、もう一方の手は左右の動きで太鼓を叩くのです。このような打ち方によって、韓国独得の3拍子のリズムが出来上がるわけです。このリズムは独特で、韓国の民族性や文化が染み込んでいるリズムと言えます。生活習慣や文化の違いからくる音楽性の違いを研究することも非常に興味ある事柄です。例えば日本では履物である下駄を履く習慣からトカトカと2拍子のリズムの歩き方となり、太鼓の2拍子のリズムや舞踊の足取りに繋がっていると思われる。一方、韓国人は地面を感じるくらい低くて柔らかい靴を履き、足の踵から足裏そして足先の順に踏み進む歩き方で、韓国の舞踊に使われる3拍子のリズムであり、チャングの3拍子であるわけです。私はいろいろなセンサーを使いながら視覚化して、一般の方々に理解していただけるように研究を重ね、演奏や講演活動を通して両国の文化をお互いに理解し、深く感じあえるように文化交流に

貢献できればと思っています。卒業後においても日韓の伝統音楽やアジアの音楽を西洋にまで広げて行きたいと思っています。学業と演奏活動を両立させ頑張っていきたいです。どうかこれからもご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。



▲「韓国の文化」を講演（写真中央）

### 近況報告（自転車旅行）



カドカ マノジ（ネパール）  
九州産業大学（4年生）

現在、九州産業大学の4年生で来年卒業の予定です。吉川育英会様のご支援により勉学に集中することができました。心から感謝いたします。

吉川育英会からの援助によって、中国、韓国、モンゴルなど他国の留学生との出会いにより情報交換が多くなり、彼らからの専門分野の新たな知識を得ることができました。

また、会社見学への参加も良い機会をいただいたと思っています。一年間を通して楽しく交流することができ、充実した毎日を送ることができました。

大学では観光産業学を専攻していますが、今後は観光について学びながら観光地としてのネパールをPRしてゆきたいと思えます。同時に日本のことをもっと理解し、ネパールでPRしてゆきたいと思えます。

現在、私は自転車で日本一周することを計画しています。世界の平和を祈りながらネパール観光をPRし、同時に日本の良さを発見してゆきたいと思えます。そのための第一歩として今回大学の休みを使って、自転車で九州一周の旅を取行しました。奨学金をいただいている身分であり、実際資金も限られているため、寝泊まりはテントを利用し厳しい節約の旅となりました。将来ネパールで観光業に関わりたいとする強い思いと、体力があれば何とかなるとの思いから実行に移した訳ですが、限られた期間での九州一周は過酷で予想以上に苦労しました。道中に出会った人々が、旅の目的に賛同して「頑張ってください」「無事を祈っています」などの温かい言葉をかけて応援してくれたことが、頑張る力の源になりました。この旅では素晴らしい景色や優しい日本人の心に何度も触れることができたことも収穫でした。

次は日本一周に挑戦したいと思えます。

ネパールと日本は良好な国際関係となっており、日本人はネパールの大自然の観光地に憧れて毎年多くの方が訪れます。一方ネパール人も日本人の優しさに感銘を受けています。私は将来、観光を通じて日本とネパールのかけ橋となる仕事をしたいと思っています。どうか今後ともご支援いただけますようお願いいたします。



▲自転車で九州一周の旅



### 近況報告（社会福祉活動）



サイ タク  
崔 澤（中国）  
福岡教育大学（4年生）

福岡教育大学の四年生の崔 澤と申します。

昨年より吉川育英会様より奨学金による支援をいただいております。学費や生活費など、すべての費用を自分で工面していかなければならない私にとっては、吉川育英会様からの奨学金は大変ありがたく、いくら感謝してもしきれないほどです。

私の場合、初めて来日したのが9年前で、大手自動車会社で3年間働いた後に一旦、帰国しました。しかし、日本の大学で学ぶ希望を捨て切れず、再び来日して大学に入学し現在に至っています。大学では国際共生教育を学んでいます。

私は社会福祉に関心があるため、現在は障害者の方たちの生活や自立のための支援を行っている会社でアルバイトをしながら障害者支援のあり方について学んでいます。吉川育英会の奨学生として採用されて、良かったのは奨学金がいただけることはもちろんですが、他の奨学生や吉川育英会の皆様と交流し、対話することができたことです。日本の社会で生活する上で必要な知識や、将来の就職先に関する情報まで、アドバイスしていただけたことは、私にとってありがたく大きな収穫となりました。これからも学生生活や吉川育英会の活動を通じて得たことを糧にして、少しでも成長していけたらと思っています。

さて、今年は何かと慌ただしかったのですが、来年も機会を与えていただければ、この二年間の感想や学んだことをご報告させていただきたいと思っております。これからも、ご支援と指導の程よろしくお願い申し上げます。



▲社会福祉活動の風景（写真右）

#### 《事務局より》

平成20年に友の会が発足して、4回目のおたよりです。今後も、会員のみなさんの近況をお知らせしてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。